

事業報告書 (平成 29 年度)

事業名 手法の習得と実践の機会提供による国際理解教育の推進

団体名 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 担当者名 山上正道

※活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

世界の多様性と日本を含む先進国と開発途上国との格差や、2016年に発効された持続可能な開発目標 (SDGs) を体験的に学び実践するためのワークショップや勉強会、報告会を開催した。

①セミナー「国際理解教育に使える教材ツール・手法を学ぶセミナー&ワークショップ」の実施

ESDの取り組みの活性化やグローバル教育の観点から、当団体が開発途上国で実施するプロジェクトを紹介する講演やワークショップの依頼を数多く受けている。依頼元からは体験的なワークショップや気づきなどを得られる内容をとの要望が多く、教育機関や公民館スタッフ、ボランティアや社会勉強を希望する学生からもその手法やスキルの習得を望む声が多い。そこで、国際理解教育で活用できる教材を紹介、参加者が実際に体験した後、活用する際のポイント等を学ぶセミナーを実施した。

ツールを学ぶワークショップを岡山ESD協議会の所属関係者対象に1月21日に開催した。講師には、日本の教育現場をはじめとする様々な場の開発教育を広げている特定非営利活動法人開発教育協会に依頼した。大学生、学校関係者など延べ8人が参加、「格差の現状」、「豊かさとは何か」、「開発とは何か」、「SDGsとは」、「岡山とSDGsの関係と、岡山から貢献できること」についてのワークショップを実践しながら教材を学ぶ機会とした。教材を活用する際に気を付けるべき点や、国際理解教育の可能性と難しさ、簡単にできる開発教育アクティビティなどポイントを押さえたワークショップが開催できた。



グループワークの様子



簡単にできる開発教育アクティビティ

(様式第8号)

実施日：平成30年1月21日

会場：岡山繊維会館2階会議室

参加者：8名（高校、大学の教員、講師、NPO職員、大学生など）

②持続可能な開発目標（SDGs）の勉強会及び報告会

毎月第二・第四土曜日を事務所開放日とし、岡山市民が国際協力の活動に触れる機会を提供した。また、SDGsの具体的行動指針（17の個別目標とより詳細な169項目の達成基準）から、当団体の活動に深く関係する目標に関する勉強会を実施した。

海外駐在スタッフの一時帰国に合わせ、SDGsに関連した活動の報告会も岡山市内にて開催した。

- 4月7日 報告会 SDGsについて@ゆうあいセンター
- 5月27日 勉強会 SDGs1、4、5、8、：貧困、ジェンダー、生産・消費（フェアトレード）
- 6月19日 勉強会 SDGs3：健康と福祉
- 6月24日 勉強会 SDGs10：格差・是正（開発教育ゲーム）
- 9月21日 報告会 SDGs6：水と衛生 ミャンマー編@アスエコ
- 10月14日 ミニ報告会 SDGs11：都市 ホンジュラス編@AMDA 社会開発機構事務所
- 10月18日 報告会 SDGs1：貧困 ミャンマー、ネパール編
- 11月11日 勉強会 SDGs3、4、5、8、10、12、13、14、15、16、17：スポーツと国際協力
- 1月18日 報告会 SDGs3：健康と福祉@国際交流センター



SDGs 勉強会@AMDA-MINDS 事務所



報告会@アスエコ

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

ESDが持つ視点である「課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと」を踏まえ、開発途上国の現状と課題を自らの課題として理解し、身近な点からの取り組みができるよう、ツールや教材を活用した。

当団体が実施する社会開発プロジェクトはSDGs（持続可能な開発目標）の達成を目標にしており、ESDとの関連も深い。それらのプロジェクト通じて得た経験・知見を開発教育教材の組み合わせ、世界のどこかで起こっている現実をより深く理解でき、岡山と世界の関係や岡山から実施する貢献を考えるきっかけをつくることができた。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

教材ツールを学ぶワークショップでは参加者より、「1日という長い時間をあつという間に感じるような内容でした」「普段、生徒に課題を与える立場だが、いち参加者として課題を与えられる立場になって、『話し合うこと』『意見をいうこと』の大切さ・大変さを体感しました」「分かりやすい言葉や実例をもとに進めて頂き、とても満足しました」などの感想があり、それぞれ手ごたえが感じられた。

3名の教育関係者の参加があり、このようにツールその物やワークショップ実施のコツを体験しながら学べたことにより、教育現場ですぐに生かせると感じてもらえた。

当団体スタッフを含め受講者が今回得た学びをESDの推進に生かされることを期待したい。



セミナーでの振り返り

4. 今後の課題と展望

今後はセミナーで学んだ教材や手法を活かし、教育機関にてシミュレーション的に体感・実感しながら世界の多様性や格差、課題解決やSDGsなどを学ぶやワークショップを実施したいと考える。目に見えない日本国外のことを身近に感じ考えることは容易ではないが、事例やその現状を表す画像として当団体が行う開発途上国の状況や活動内容を用いることにより、見えなくなっている物をみえるようにする国際理解教育を展開したいと考える。教材やツール、事例を増やし、当団体が持つ経験・知見を幅広く教育分野に貢献できればと考える。